



沈
叢
二

特別
14
696
45



目録

一 葉崎寺

一 軒の歌

一 大鶴茶屋の歌

一 草末庵の歌



五

696
45

初建出人機

美潔多

梅忘少泉指

小寺
玉泉

雨

梅意如氷香紅看乃山を
逐るは雪のまじりて
しんたて雪雜せり
樂ははるる町田の
以を筆のほたる
鶴更の少の翁

新前やまに命の安のり 尺多 本李

いさよのあけ 尺多 云破

いさよのあけ 尺多 赤矢

秋のあけ 尺多 惟我

月代のあけ 尺多 和寿

あけ 尺多 風石

あけ 尺多 全

あけ 尺多 野書

秋き 尺多 一枝

あけ 尺多 流英

あけ 尺多 芝香

あけ 尺多 鈴屋

あけ 尺多 名恒

あけ 尺多 喜柳

あけ 尺多 伴旅

あけ 尺多 尾川

茶のうらやうつらや茶の花
文九

仰らう酒をふと茶の月
其雄

生らふしやけぬく好茶子
朝香

一さうやうく出の好茶子
南白

指書し茶のあや音
行水

こゝれあやうくや海
李喬

あつゝえのものさあや秋の音
風石

こゝれあやうくや海
カビ女

清やあやうくや海
自哭

忘るのあやうくや海
里川

海をうりのあやうくや海
来音

月や風のあやうくや海
秀月

稲まやのあやうくや海
其雄

物まのあやうくや海
博玄

河まのあやうくや海
金波

河まのあやうくや海
博玄

例へば〜大ま〜た〜ぬ丹のこ 松市

好むや流のこ水の底光 上京 花粹

末格やま〜こ〜ぬり〜 小磯 河島

舟の〜こ〜ぬり〜 毒海

船〜こ〜ぬり〜 風石

朝舞や影流の湯の物 前田 酒花

山彩のま〜ぬり〜 棲長

村の〜ぬり〜 夢言

中〜こ〜ぬり〜 梅寿

子〜こ〜ぬり〜 云二

船〜こ〜ぬり〜 崎友

船〜こ〜ぬり〜 春甫

舟〜こ〜ぬり〜 久住

舟〜こ〜ぬり〜 野宮

舟〜こ〜ぬり〜 必峯

舟〜こ〜ぬり〜 風石

菽のしるしをくさや秋の夕
梅守

旅人もるはりなる山の秋
すけ女

野原やあけ極まる川はみ
宗仙

はあゆみの余存りや雲の謎
文宗

ふかしの地たるや雲の月
三寿

引く襪の中にもなまこころ
石女 朱糸

望み候はるはる河向松稔作
全

尻まきと看らすしやあはれ酒
重波

くうや乃ささくしてまやまの解
浦雄

旅人や文可の月よおし歩り
梅素

江中や所いあきと山めち
風石

きり帆とる中戸をよの月
ト高

井のくさのまのまや朝露ま
才恒

はのころはるまや雲のまのま
保翠

まぐくもるまのまのまのま
朝香

雲のまのまのまのまのま
水泉

花子そよみの川をさし流すや花さきき
 可也
 夕陽や戸口をさし夕陽の
 風石
 水さききのまじりやま紅葉
 暮夜
 入月やまじりやのこしき道
 露
 山紅葉其れをさし山と流る
 常持
 家造りいさしやまじり紅葉
 露
 新ひやまじりや露のさし紅葉
 自安
 掃くやまじりやのさし十月夜
 掃
 掃掃の屋

月了す心あふのあまの田うら
 常持
 雁雁くく又春のまじり紅葉
 露
 白白くくくくくくくくくく紅葉
 士業
 棹棹くくくくくくくくくく紅葉の水
 露石
 中は知れぬまじりや紅葉のまじり
 一朗
 日日くくくくくくくくくく紅葉の花
 久仁
 栞栞竹や栞くくくくくくくくくく上り
 芝原
 栞栞書や栞の中まじり紅葉のまじり
 葉山

うねりし御一筆のり小葉の

若水

谷川さく車ゆや草のり

春南

秋まや山のりねむ好む

如峯

晴のりてやめく月や響ひ

百井

内る借りのり一まねる香のり

一ニ六

白石

らんりりり此のり候や秋の花

賢山

吹流のり糸と巻きく月のか

辰越

稻書や出くは月くまへり

文景

名りや松さしけきく一筆

中孝

席くもおしく巻く花や

暉朗

ま川人い来ひのりさるる秋のり

与之

朝空のり透年くさし旭くわ

紫風

寝のりや一日のりさのりれき家

塙月

秋月

晴のりや花のり候きふらり

和孝

市路のり接くおさめくて娘のり

英雀

少きよのり候くはるや子のり

秀月

つらぐさ小流にそよぐ花の葉
ナシ

出づるの中しゆりくとも美し
李喬

海へ傳へし毎朝のこころや紅葉
長夕

落しゆく声もくくと響い
如泉

むしりや一里をくし武治
三二

井戸のしんじきあつた秋の心
桃の尾

とまきくくくくくくくくく
右橋

描くけけけけけけけけけけけ
風石

あつたけけけけけけけけけけけ
りし

おのれおのれおのれおのれおのれ
士俊

あつたけけけけけけけけけけけ
其香

あつたけけけけけけけけけけけ
鏡有

あつたけけけけけけけけけけけ
保嬰

あつたけけけけけけけけけけけ
車南

あつたけけけけけけけけけけけ
桔尾

○

坂下ノ山原のありき 琵琶島 雲梯

くさくさ 三 道

ハ野や流を無き川 三 玉光

風名ノ戸を流さハ柳 チタ 春松

川ノ舞ハ 三 一舟

湖ノ漣 三 梅天

こゝ子 三 法紫

區作 三 玉窓

湖 三 一可

道 三 大禪

紫 三 う海家

紫 三 兵業

柳 三 中まみ

柳 三 翠の紫

柳 三 柳島

高雲や子信の如く吾輝を 月鏡

約束のころきくおと月を 二首

きよしの涙をよめく山を秋 夢

はくく出くハ羽の静夜 雨 一歌

朝霧とてまのあけり 雲 暁 夢

電燈の系りあくく しみちうを ^{アタ}トと

冷くく風の吹くく小春 春雄

情けのこころまくまよふ 夢 夢

居あけり 夢 夢 夢の月 是詞

月の如く 夢 夢 夢の月 薫

叶の戸や 夢 夢 夢の月 文風

情けを 夢 夢 夢の月 如家

情けや 夢 夢 夢の月 夢

水毎夜伊豆のくしきりす

水

萩の丹の軒うさし

水

うき雪の市の小茅や運くせを

水

くしきり丹の軒うさし

水

縁とのあしは長安を日くは

水

梅の小舟のちを

水

世をさす心は

水

下りきりも

水

笑ふわく

水

待たき

水

さうに

水

布

水

茶

水

よ

水

海のうら声あふくくくくくくくくくくく

史

とめ車——くもき——むの戸

史

落きてもそれいふくくくくくくの内

史

くくくくくくくくくくくくくくく

史

強もくくくくくくくくくくくく

史

言めかたはくくくくくくくく

史

遠くくくくくくくくくくくくく

史

痛くくくくくくくくくくくく

史

午細くくくくくくくくくくく

史

流きくくくくくくくくくく

史

世くくくくくくくくくくくく

史

馬くくくくくくくくくくくく

史

霧が親子くくくくくくくく

史

祖父の垣糸くくくくくくく

史

くくくくくくくくくくくく

史

牛一頭くくくくくくくく

史

書林

尾州名古屋本町

晴月堂卯兵衛

漏金根も車らしは好ハ筆を以

泉

振書の候り乃保くやまふ

泉

地号ハ休まろのハ小者ハ

泉

懐も川を以日のく記彩

泉

多料理と額をもて花書

泉

誰も〜ヤビ所ゆ下の書

泉

嘉永二年

三月

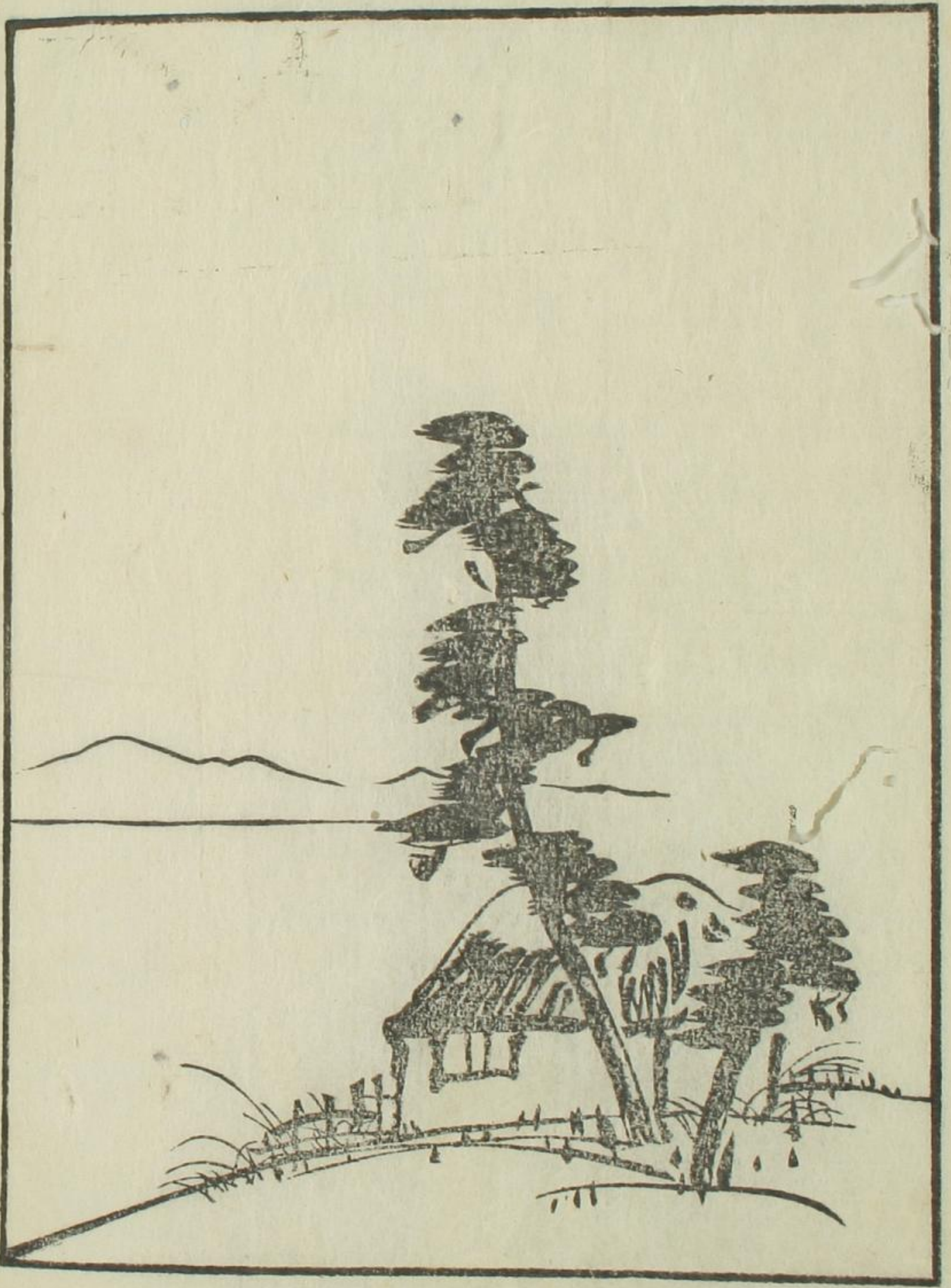
熱田大宮奉納額面

軒形影

尾府

鬼頭乙人
横井律高
輯





祝の如て祝せしむるもの表に戸を
 迎給ふも此の傍にわをんが ヲカタ目

今この日、**新**の秋の月、ふも

〇
 温るる心も、
 足踏も、
 せきまら
 ちいさの

帳に記さるる川田のり
のいふ難しうおのりいせ
費つるにんをいふに
言はれはるる事一
おららるるをいふに
川 野 東 野 信 如

○ 遊やうとてはるる
月のおとこはるる
ゆらぬまはるる
掃せよとてはるる
名はるる
遊やうとてはるる
月のおとこはるる
ゆらぬまはるる
掃せよとてはるる
名はるる

知く前傳してとてはるる
月のおとこはるる
ゆらぬまはるる
掃せよとてはるる
名はるる
知く前傳してとてはるる
月のおとこはるる
ゆらぬまはるる
掃せよとてはるる
名はるる

為らるるものたさうむの
 久しきものありあけり
 一いつるものありあけり
 白濁りたるものありあけり
 三つものありあけり
 けり。

一いつるものありあけり
 白濁りたるものありあけり
 三つものありあけり

弘化丁未の事

九月廿二日

葬

家傳の中葉うきまに新明 二風
 久しきものありあけり
 宿りたるものありあけり
 少細中神音と聞てるものありあけり
 ねもらるるものありあけり
 ちかひたるものありあけり

三九

丁丑十月五日

玉の清き

鶴屋の半く一輪の物此等ナルミ 珂月
世に聴く名花むく筆を名はるミカハ 競美

梅をく

望より静よりや一之老の人の中 紫黒
宿りのく来る流の雨の申さみアミ 花鏡
羽をふりぬる雪くとぬ小まき印カクテン 路英
経持れ同き女の口もも時ふり 我竟
杜若もあはれ志めて志川キヨス 也 駭之

音くや時雨まつ灯ハ油らもて誰か

田舎の空の舟一山まは帆舟江は橋オホキ 對松敵

鶴屋のくまの舟より雪とむるくくミカハ 島亀

雪の坊や様ふふみく沖の色 雪居

り出ある雪よりあつく時雨分イセ 文有

石花ひくや雪く高てある町 東耕

朝の保

杜若のき強くくつる紫やる分 紫黒
帆の影のさす中春此 船鏡 弓影

鞍之北朝のまきやうしんかめり アツタ 呂桂
 多々新のこすお小春のあつ細 大カ 阿朧
 燈籠のしゆをさるる柱の 大カ 夕好
 三井の鐘つくとすの袖の時 ハクロ 池右
 夏左衛門つと小春のち自整 大カ 括之
 不二の山小春のそら山 大カ 雀酒
 林芦やあやこま アツタ 秋の雪 アツタ 教良
 しくまの アツタ 春のあつ アツタ 橋守
 又つとつと 大カ 水のつと 大カ 花角

菖子 ミカ の ミカ 雨 ミカ 春亭
 舟 セシヤ の セシヤ 花 セシヤ 雀友
 芦 セシヤ の セシヤ 花 セシヤ 而后
 窓 大カ の 大カ 日 大カ 窓月
 窓 信 の 信 雨 信 窓月
 風 イセ の イセ 山 イセ 風枝
 油 大カ の 大カ 油 大カ 花系
 湯 イセ の イセ 湯 イセ 湯
 湯 イセ の イセ 湯 イセ 湯
 湯 イセ の イセ 湯 イセ 湯

小春の六名の通了なるの初武 ミカハ 三礎
 其の赤子空のりて蛸を割女 イセ 對山
 枯芦や浪の飛を了 煙机 イセ 弓新
 月時をたまへ雲新の空まは イセ 白溪
 鷲を飛やいまの池を幾的為 孫之
 けりくは 小シ 少老お海乃小空 小シ 龍士
 一 イセ や鳥もとりぬ イセ 守所 梅桂
 枯芦や イセ 急俳押ある舟 イセ 上里 永南
 梅のるも イセ 約 イセ 蛸割小春 イセ 卯、 連山

蛸をむく鳥の 太山 ころし 終此 太山 蛸
 身を 太山 大 太山 けり 太山 知 太山 せ 太山 へ 太山 時 太山 雨 太山 危 太山 汲 太山 正
 蛸汁や イセ 雲 イセ 情 イセ の イセ ひ イセ ころ イセ あり イセ 文 イセ 有
 雲 太山 ち 太山 き 太山 終 太山 へ 太山 枯 太山 芦 太山 を 太山 少 太山 くり 太山 け 太山 蛸 太山 川
 蛸 岩クラ と 岩クラ 蛸 岩クラ も 岩クラ あり 岩クラ 小 岩クラ 春 岩クラ の 岩クラ 形 岩クラ 程 岩クラ 赤 岩クラ 始
 蛸 イセ 手 イセ へ イセ 何 イセ 心 イセ の イセ 一 イセ 一 イセ 飛 イセ へ イセ 松 イセ の イセ 書 イセ 独 イセ 有
 不 イセ 老 イセ へ イセ 里 イセ せ イセ へ イセ 一 イセ も イセ 飛 イセ へ イセ 老 イセ ま イセ たり イセ 安 イセ 地
 け 大クニ り 大クニ 心 大クニ ち 大クニ 事 大クニ を 大クニ 結 大クニ る 大クニ へ 大クニ 自 大クニ 約 大クニ 瓶 大クニ 芝 大クニ 京
 照 大クニ ね 大クニ へ 大クニ 定 大クニ へ 大クニ 蛸 大クニ む 大クニ け 大クニ つ 大クニ け 大クニ 月 大クニ 離 大クニ 當

西江のほとり
 牛一宮子
 五津のほとり
 枯竹のほとり
 多野のほとり
 一穴する
 山影のほとり
 松風をほとり
 ことごとく

伊七郎
 茂境
 白渡
 阿月
 安彦
 白渡
 鳥川
 八郎
 花鏡

白のほとり
 瑞年
 早のほとり
 芦花のほとり
 梅のほとり
 一穴する
 海乃のほとり
 枯竹のほとり
 少のほとり

半葉
 信
 李仙
 古宮
 阿月
 阿月
 阿月
 阿月
 阿月
 阿月

杜芦の根もれまゝのあけび 汲正
 海におゆを時雨の金うら子 キン 冠季
 名をさむくもや物事あはれなる まふ女 東春
 一へしおちく時あはれ小口うね 大女 玉山
 杜芦やまありしくと五位の妻 女 松花
 翁の志さるまゝあきし 女 花鏡

○
 新浪也來河や結る芦の夢 地翁

歌師 草木葎 大葉 月次 披揚 天保元

追加

焼原や赤唐けきる雛子の声 フラスミ 有雪
 あれ畑や小松種れを雛子 日 麻骨

寅四月又題

時をのびやふもくあめ 飯改 麦矣
 二村よ出て及作る若菜 夕 九江

○
 馬道や身可流えおみ子の花 寺モト 千春
 笋乃敷を久えをく雨間 ナルミ 花笠

寅月六



連立て方工乃帰る 裕ヨシの事 東輅
 不フとキにシ言ハし 汝時ニ止ムありし 里雪シノセキ
 由ユ良リく 電筆デンペン也 一雨乃於 馬勒
 雨足乃付入日の昭る和ニ氣キハ 東岱
 筆ペンや加カるル勢セウをウ究クるル境ケイ係ケイ 轉子アウタ
 照テすスもモ空カラの色シキをウ照スるル多タくク聚クるル 羅城ミカハ
 不フつとツ出デるル為ナリ并ナヒ立タてル 裕ヨシ采サイ難ナン 存江
 笛フエや人の數トビをウ遠トくク入ルてスる 清谷

降フるル雨アメはハるル時トキをウ 聆リ聞ク
 朝アサの心ココロをウ古コあハをウ 耳ミミ墻カキ
 馬ウマ子コをウ出デるル風カゼをウ裕ヨシの事コト 玉水タマミヅ
 了マるル出デ乃ノもモやヤめメるルをウ 巴周ミヤセキ
 ところトコロをウ是コトをウぬヌ日ヒ敷シの裕ヨシ采サイ難ナン 雲クモ松マツ
 風カゼの事コトをウ若ニギハヤヒ葉ハをウ白シロくク人ヒト勢セウ子コのコト 龜有ミノセキ
 起オキるルとト鼻ハナをウ打ウちチるル不フ如ニ帰キ 五柙サフリ
 出デ歩ホりルもモあハるルや 裕ヨシの事コト 歌友カトモ
 一ヒト声コエ子コ下シタ踏フミ多タや 不フとキ守モリ 角丸トミタ

年々とぬんて居る者 裕コノ事コト 東岳トウガク
 笋タケノコ 小階コノ 南ミナミ ぬまミ 有雪ユキ
 一日乃イツニチノ 豫ヨ 才サイ 睡スイ ありせうれイハクラ 梅路ウメジ
 笈ウチ やヤ ありかたカ たタ ちチ もモ 鼻ハナ の先ノ 女メ 鯉昇イナギ
 花ハナ 及び及び 子コ のノ 土ツチ もモ あり 地チ 苔コケ の事コト 信シノブ 一イチ
 塗ヌ 直ナ ちチ 居イ の遠トウ る若ニホ 葉エフ 一イチ
 裕コノ 居イ る日ヒ 南ミナミ ありとト 礼レイ ちチ 暑ナツ ありアリ 風カゼ 丘カミ
 ちチ ちチ ちチ ちチ 切キ ハハ 手テ ちチ ちチ ちチ ちチ 花ハナ 輝ヒ 朗ロウ
 草クサ の戸ド 能ネ 工コウ 舎シャ のノ 出デ るル ちチ ちチ 葉エフ 連レン 山サン

裕コノ 居イ る者モノ へヘ 糸イト ちチ 居イ る者モノ 九月堂クヰツドウ
 町チヨウ の子コ 能ネ 採サイ る者モノ ありとト ありとト ありとト ありとト 一イチ 樂ラク
 裕コノ 居イ る者モノ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ 耳ミミ のあり 重オモシ 福フク
 及び及び 子コ の花ハナ 及び及び 子コ の花ハナ 及び及び 子コ の花ハナ 及び及び 子コ の花ハナ 廣ヒロシ 船フネ
 湧ユウ 潮ウシ 能ネ 見ミ る者モノ ありとト ありとト ありとト ありとト 芳ホウ 臺ダイ
 ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ 今イマ ありとト ありとト ありとト ありとト 一イチ 蹊セキ
 ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ 一イチ 蹊セキ
 ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ 啓キ 之シ
 ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ 竹タケ 里リ
 白シロ 及び及び 子コ の花ハナ 及び及び 子コ の花ハナ 及び及び 子コ の花ハナ 及び及び 子コ の花ハナ 不フ 若ニホ

夕夕と袷セトて志のく様寐ヤサコうき 豊山
 あま勢ヤサコ着て何そりすれんゆら
 筆や必サカハうくるるるは婦サカハを 萬怒
 袷着て勢カサキけんんるるあ〜これ キ十
 筆や牛カサキ弁カサキけりあけ京を〜 袖香
 又て居カサキれを一婦カサキあぬみ子の心カサキ 素山
 古町カサキ跡カサキき道間〜〜とら〜とこれセト 至篤
 女カサキのこも囀カサキて入るや寺跡カサキ風呂水 桂甫
 兄カサキ弟カサキの小つまカサキ披カサキるあま勢カサキうき 道平

切を〜む肉カサキ弁カサキあけあみ子のそれカサキ 鳥声
 筆を極カサキあける雨の止間カサキこのきカサキ 浪江
 浦カサキの戸カサキを明カサキき目カサキらや美子の花カサキ 嘉告
 温泉の入加減カサキとさあうカサキ葉カサキ南 褒矣
 綱カサキ面カサキ弁カサキぬきて色カサキ懐カサキき若カサキ葉カサキうれ五 東城
 流カサキきを白カサキんカサキ傳カサキ明カサキるカサキワカサキうカサキ葉カサキうれツ 正之
 花カサキやうカサキるカサキものカサキらカサキあカサキまカサキのカサキあカサキまカサキ 角丸
 蚊カサキのカサキ居カサキるカサキぬカサキ宿カサキとるカサキきカサキやカサキ不カサキとカサキきカサキ 吳有
 牛カサキのカサキ子カサキやカサキ櫻カサキのカサキさカサキれカサキぬカサキ寺カサキのカサキ敷カサキ 可閑

七印

本入の廣の町や 餅行店 犬山 車文
 舟上を九の宮上如くや 餅行店 犬山 車文
 枝をくさす事なく 接たぬ 一景 一景
 神籠や 幾ひ乃ちた如 草集 草集
 けしきや 何の 一田圃 一田圃
 昔く 一田圃 一田圃
 けしきや 何の 一田圃 一田圃
 龍和 犬山 龍和

皇形所三丁目
鴻永月

八月三日

天

引の如く 二休 二休

地

新 禮の 祝ひも 帰して 海へ 入 栞賀 栞賀

人

戸 締り 如松 如松

十点

初 丁や 未白 未白
 家 極く 時危 時危

初丁の如く... 花光
左ト
時庭

七点

明早や... 芳水
未白
杜若
鎌次郎
拵子
一賀

門少れハ... 早牧
寒洞
谷水
九
其峰
松窪女
巽園
優雅
一二三

山後より石切の妻の所の妻 松山
 乞にけしもの月や廣井の家二軒 ^{ニッホ} 歌行
 張るる地 ^{ニッホ} 一賀
 六行れども香の上り竹の香 全
 返くく ^{ニッホ} 梅賀
 結 ^{ニッホ} 寒洞
 何を ^{ニッホ} 玉池
 名 ^{ニッホ} 時庭
 ○
 走 ^{ニッホ} 降水

十月三日

天

砂川の雲帯の月小鴨の羽 ^{シガ} 吳休

地

鶺鴒の砂は相叩く小春の心 ^{三冊大石} 桐陰

人

お蔭の餅んで立去るを神 ^{シガ} 吳休

十点

風十節の雲衣より ^{シガ} 秋山

何節の流るるを ^{シガ} 一賀

全書
尾山志本抄卷之九物法蓮華經之旨

飯翁



おのゝ
おのゝ

おのゝ

あゝの海老の甲

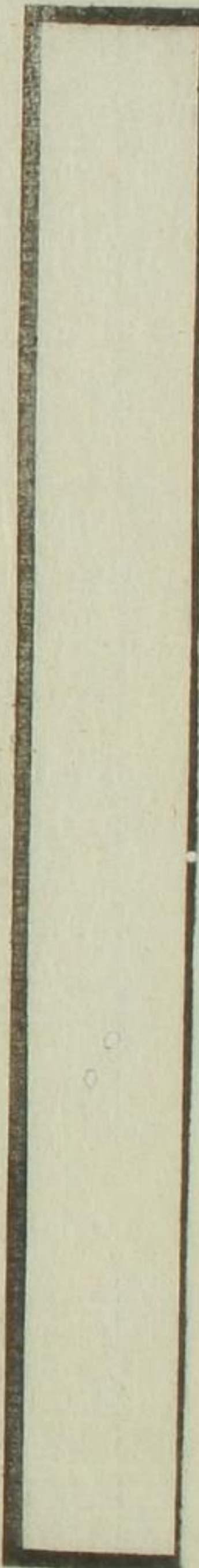
大なるのまのり

おのゝ

三四

松坡葦海月次集冊

松坡
友馬



松坡

赤白月

池氷中々

白雲白柳軍形

カシタ

一香

白雲也

深安也

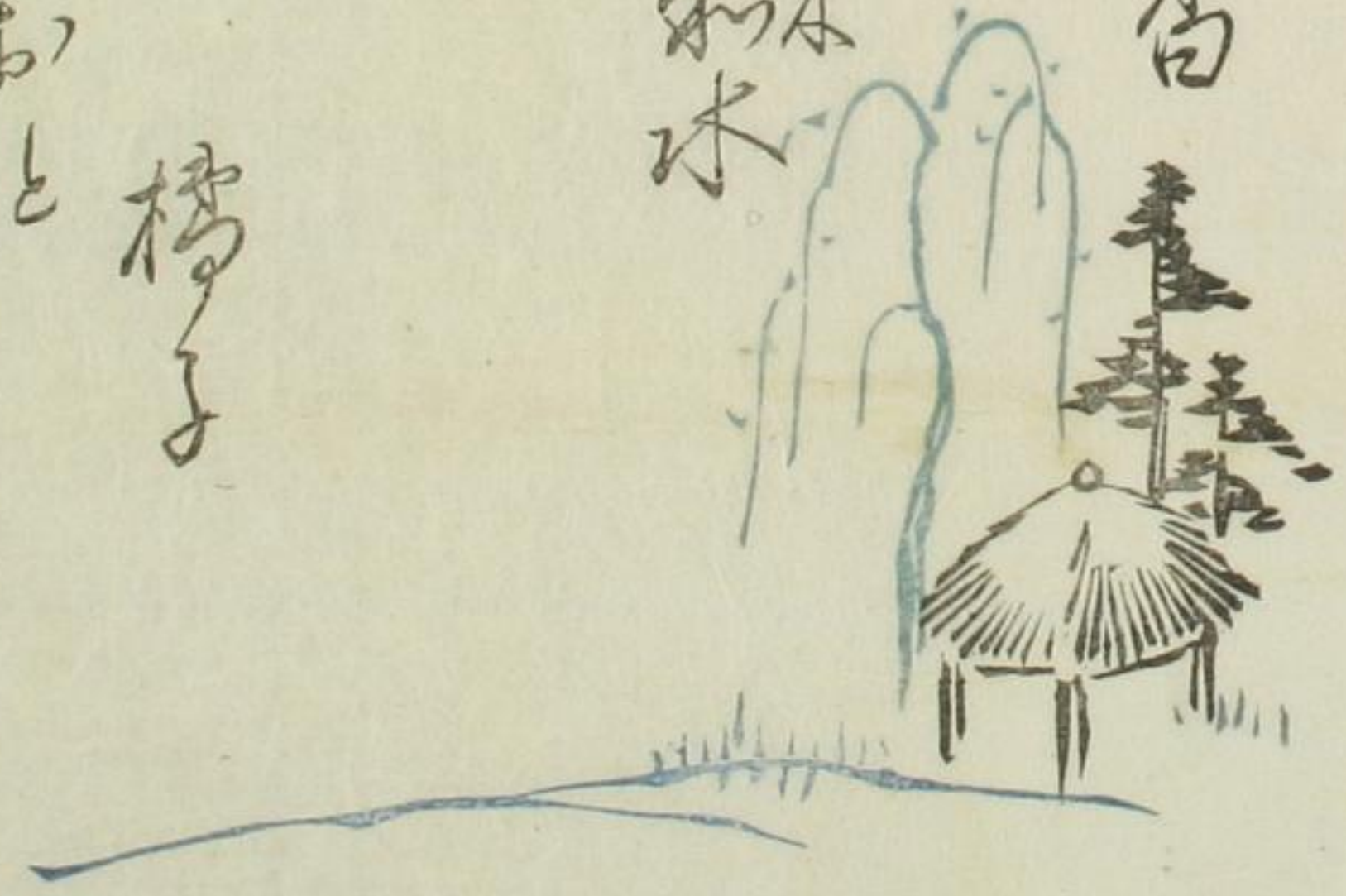
氷

と結古粒

薬のしり

まふおと

橋子

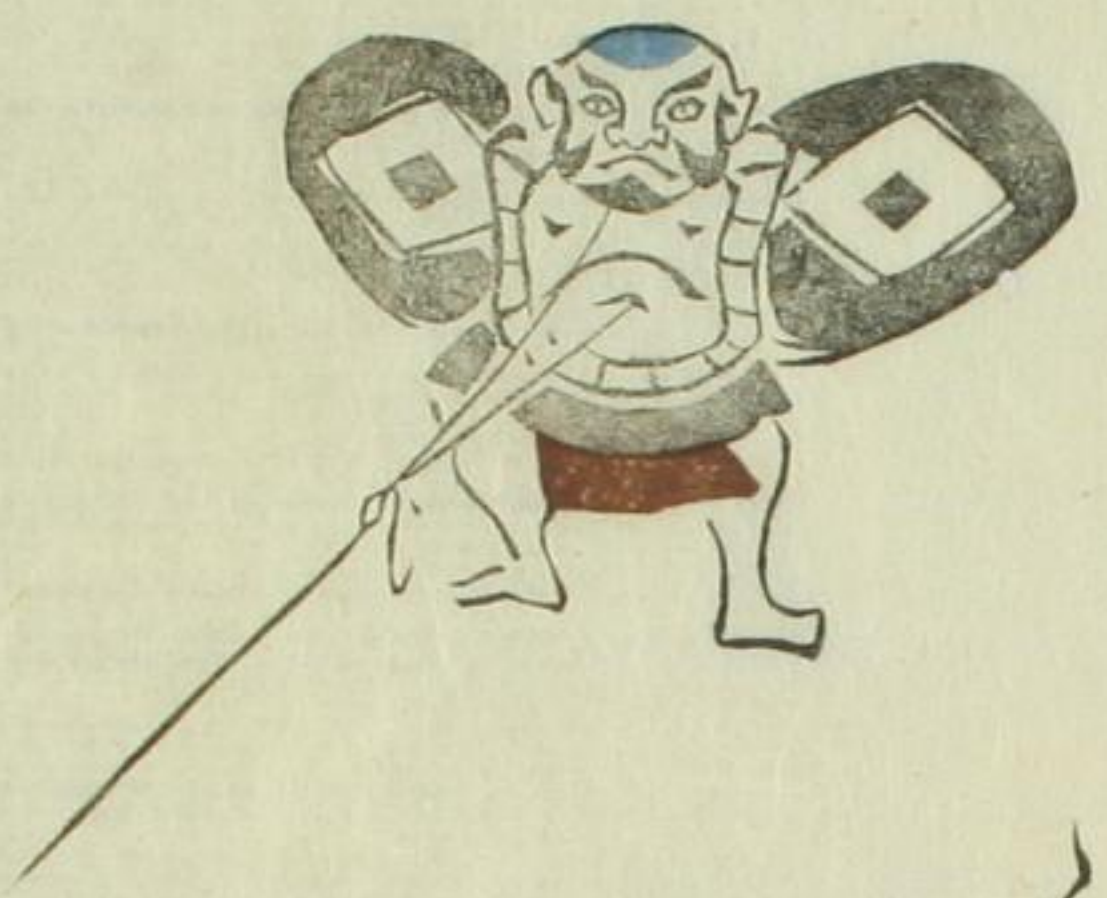


藻麿て候より切りや多敷りか ミラシマダ 三禁衣
 うあうて酒めぬ井のあり柳新 ミラシ 一瓢
 一歩さあ田とありし柳やを ミラシ 一許
 初生やそのうく乃あり心地 总作
 喜柳やあぬあふぬれ一盤 多乐
 土門来やよく風の掃き出さぬ フロシ 木中
 出たり月をかり一観く 材木 柳各
 初生を考り一観く 十ハム 柳各
 と初生を考り一観く ミラシ 一歩
 青柳やあぬあふぬれ アツタ 柳各
 川に生く ミラシ 一歩

戸口と舟のさそあけ柳 ギフ 松風
 万才や流り人と思ふ ギフ 总朝
 新しうも枝のさそあけ柳 ツシマ 歸年
 流しきりあまのうけ柳 ツシマ 如木
 松竹も旭も白く ニシコ 柳
 青柳ありし ヨリド 柳花
 白くありし ニシコ 柳花
 夜来とや ニシコ 柳花
 川に生く ニシコ 柳花
 子孫 材木 柳花
 夕 カヤ 柳花

庭に於て中々青む柳を
以上は月のかきよ柀原 三ツコリ 雲一
白く月を照らすとあり柳を 田 茶耕
ありやうと白く落るくし カヤ 東塙
初春に障子明りし玄冥先 十ハム 季壽
り南之突の氣厚く柳を 灰山 辰仙
ありやうと白く落るくし 川西 千松
初春にや何れをうらむも月一交 龍芝高
光をとりけりしのか遠く柳を 松之鏡
初春にや並木を以ては柳の風 多カキ 宙皓
常の事とほくしありしもの柳 タカキ 浩潔

平んや家それの明るき柳を 多カキ 一 雲
初春にや何れをうらむも月一交 ヒラ村 秀史
初春にや並木の初も新しき 入カ 秀勢
子を無くして入りしや柳を 三ツ西 枝青
初春にや何れをうらむも月一交 中下 柳枝
初春にや何れをうらむも月一交 大カキ 浩我
初春にや何れをうらむも月一交 コロモ 菜丘
初春にや何れをうらむも月一交 中枝 井折
初春にや何れをうらむも月一交 ヨリド 柳折
初春にや何れをうらむも月一交 井折 柳折
天井に蘭もあはぬを 五俵 究雅



未二月

社名不明

未だ明も爰葉哉

藤はけと細て

り流るや水の将

と山手や

もと中支あり

月明
ヲカダ
可丸

何のくし海明塔の柳くを 三洲大橋 宮光
 初春や春よりそく松の風 三ノ 春水
 大も出り細をけしん 山猿
 能くけしん 光志
 才は梅の風や 子多クサキ 梅名
 猿あきく ヲリド 春鳥
 子の 中下 梅也
 白く丸のん 三橋
 初春や 多ナラ
 溪 松塔
未未中月の上

ヲカサキ

月橋

クサギ

士有

十点

舟移を投し弱や夕多文
菅草葉や古橋の門に二牙に
徒船より垂る水や如く燕
頼もかき柳林一の古丁場
振うとち梓木もあきそ葉燕

七点

初来れ振り思ふはサメの象
川中に橋をたてりて水あは
とて垂る水や如く燕
とつちやおもひぬをよと曲り居

為るは戸も初来れ思ふは
向ひ地のみそしつゆり
たしややあけつゆりの
振るる初来れ思ふは
万がよと初来れ思ふは
子に結ぶる思ふは
しとちや門は思ふは
雲りや思ふは思ふは
隣りも思ふは思ふは
りのを思ふは思ふは
左りと思ふは思ふは

初年や 巨能河此去埃り 南之井 一松堂
 新しき垣の意ありや 松柵 イワクラ 松長
 吹送る風は 深き水に己をうつる クボイシキ 一許
 折る松柵は 人又徳り ムラギ 墨色
 雲母や 雪積る 中下 木名
 空を渡る川の水や 初年 花井
 を遠く見るや 初年 志丈
 たん何や 松柵 湖月
 脊戸は 明程 湖月
 湖の雲の中 三入 一松
 松柵や 才情 松行

晴し 大山 文房や 松柵
 庭前や 雲 静寿
 たん何や 如斗 松柵
 川 アツタ 松柵
 松柵 アツタ 松柵
 初年 ツクタ 松柵
 一 カミ山 松柵
 明 松柵
 松柵 松柵
 松柵 松柵

松塘茶月次集冊

茶月次
友齋

乙島や浪打かゝる松の上 ヲカダ 古便所
 川にそらんふり山や新雪 野平
 為珠を穿きし田や初産 山猿
 稚麻や子張り日くれを物云 茶月次 風屏
 日垂るて氷かき人よし程光 茶月次 松蔭
 予ん住く果ぬかきり乙をふ 茶月次 一足ふ
 犯好来此二艘入付や雲霞 茶月次 李麻
 初午や乐去月立花の露 アツタ 登友
 梅本と日とたほみ アツタ 扶乐
 雜記 アツタ 松蔭店

集冊若定二辛酉年三月
廿九日成下

